

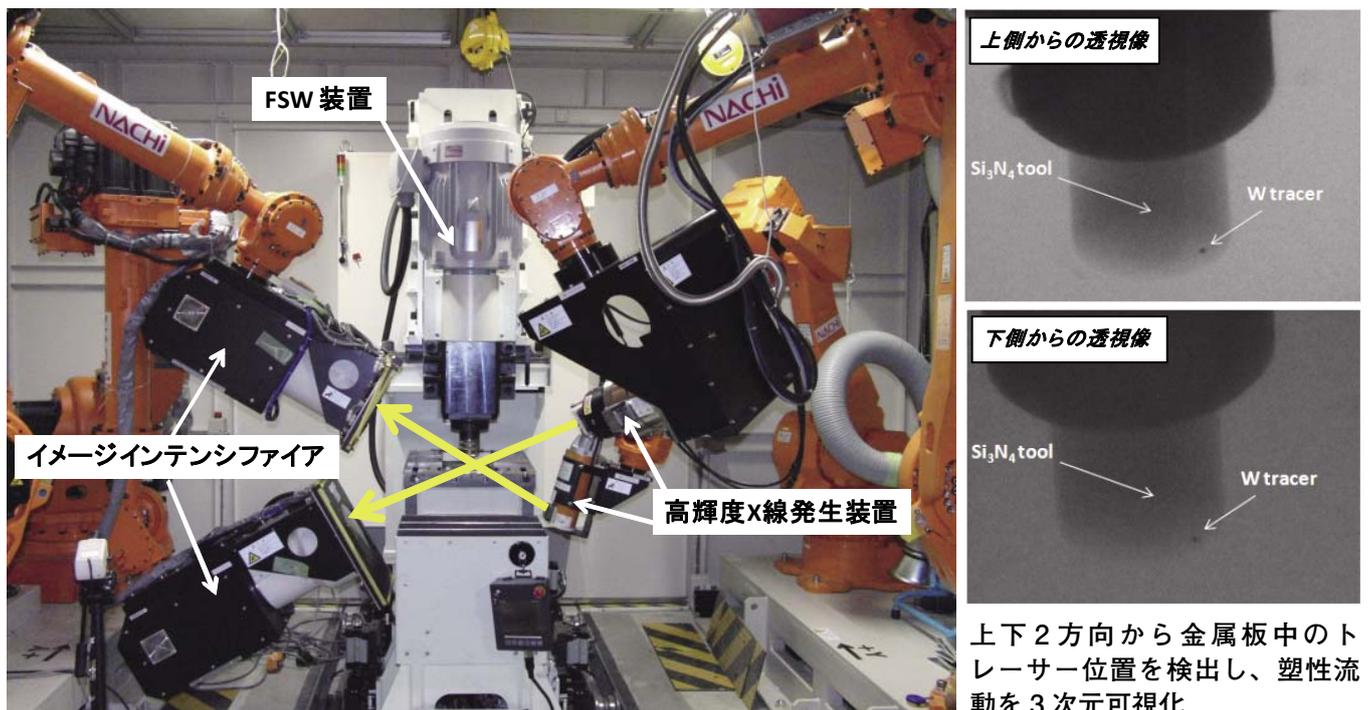
WHAT'S NEW

Joining & Welding Research Institute

阪大接合研ニュースレター

FSW の現象を世界で初めて 3 次元可視化

2組の高輝度X線発生装置とイメージ・インテンシファイアにより3次元空間を表示し、時間軸と合わせて4次元でリアルタイムに溶接・接合現象を可視化できるシステムを開発し、世界で初めてFSW中の塑性流動を3次元可視化することに成功。



FSW 装置と組み合わせた 4 次元可視化装置の外観

本可視化システムは、平成 22 年度大阪大学教育研究等重点推進経費により導入された。また、本研究は(独)科学技術振興機構(JST)による産学共創基礎基盤研究「ヘテロ構造制御」の支援を受けて実施した。

所長就任にあたって

片山 聖二

接合科学研究所長

平成 25 年 4 月 1 日付けで第 12 代研究所長に就任いたしましたので、よろしくお願ひします。

接合科学研究所は、溶接・接合に関する我が国唯一の公的な総合研究機関であり、溶接工学・接合科学に関する基礎研究から応用・実用化研究まで広範囲な最先端の研究を展開し、溶接・接合分野において世界屈指の研究所として認知されています。平成 21 年に「接合科学共同利用・共同研究拠点」の大学附置研究所として認定され、現在、全国の国公立大学や国公立研究機関から年間 200 人以上の教員や研究者を受け入れて共同研究を実施しています。また、大学院生約 100 人の研究指導を行い、民間企業との共同研究や受託研究、国家プロジェクト研究なども推進し、さらに、6 大学の各研究所と連携プロジェクト研究も遂行しています。

法人化後の研究所では、毎年、部局年度計画を完全に達成し、共同利用・共同研究拠点事業や大学間 6 研究所連携研究プロジェクト事業も順調に進捗し、多数の大型プロジェクトも獲得して成果を上げてきました。そこで、平成 24 年度に国内外の専門家による外部評価を受けました。各分野とも概ね高評価を受けましたが、一部の分野では、教員数が少なく、研究の成果や外部資金の獲得額が少ないとの指摘がありましたので、その改善を図っていきます。特に、平成 25 年 3 月末に准教授 2 名の定年退職があり、2、3 年後には、教授 5 名、准教授 1 名の定年退職が予定されていますので、この対策を早急に立てて若返りをうまく図っていく必要があります。

平成 25 年度は、第 II 期中期目標・中期計画の 4 年次に当たり、中間評価用調書を大学（文部科学省）に提出し、中期計画の妥当性と達成度の評価を受けます。また、文部科学省の指導で、医学部や工学研究科などの他部局と同様に、接合科学研究所も「ミッションの再定義」を行い、従来

の研究成果を再吟味し、今後の改革と研究力の強化を図っていきます。そこでわかった誇れる情報は、ここ 10 年間、世界の溶接・接合に関連する研究所の中で発表論文数は常にトップであったことです。これについては、今後も維持するように、全所員に努力をお願いしていきます。

平成 25 年度には、2 階建ての新実験研究プレハブ棟の建設が始まります。また、平成 26 年度または 27 年度は、6 階建ての実験研究棟（本館と新館）の耐震改修工事が予定されており、研究の若干の停滞が懸念されます。

最近、中国や韓国だけでなく、極東ロシア、東南アジア諸国、インドなどの各大学と接合科学によるものづくりに関する研究機関ネットワークを構築しつつあります。そして、平成 25 年度から文部科学省特別経費「広域アジアものづくり技術人材高度化拠点形成事業」を、阪大の言語文化研究科と工学研究科、現地協定締結大学や海外日系企業の協力を得て開始し、グローバルネットワークの構築と研究開発、人材育成を行い、我が国のものづくり産業・製造業の発展に寄与していきたいと考えています。

さて、発展する分野には、多額の予算と創造力豊かな多数の研究者・科学者が投入されます。溶接・接合の分野でも、本研究所の研究成果と活動を通じて、溶接・接合の魅力を各方面にアピールして活性化することを願っています。

本研究所の発展のため、何事にも全力で取り組んでいきますので、皆様のご協力・ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



新部門紹介

大阪富士工業「先進機能性加工」共同研究部門

山崎 裕之

大阪富士工業「先進機能性加工」共同研究部門 特任准教授

大阪富士工業(株)は、本年4月1日に大阪富士工業「先進機能性加工」共同研究部門を開設いたしました。大阪富士工業は、溶接・溶射を用いた多くの表面機能化処理の実績を持ちます。特に粉体プラズマアーク溶接(PTA)を用いた肉盛溶接は、粉末を用いることから材料設計も容易で、大阪富士工業では使用用途に合わせて機能性を向上させた合金開発を進めており、数多くの関連する特許も取得しています。しかしながら従来のアークを用いる手法では、強力な熱量を持ったビームを使用するため、それに起因する問題も出てきています。そこで本共同研究部門では、レーザーの特質を生かし、従来の手法で問題となってきた諸問題の解決を図ると共に、さらに多くの部材において機能性を高める開発を目指します。またレーザー溶接技術を用いれば、表面改質のみならず異種材接合や積層造型(LAM)など更なる試みも視野に入

れて開発を進める予定です。

本共同研究部門は、2年間の設置を予定しています。短い期間ではありますが、効率よく成果をあげてまいりたいと考えておりますので、皆様方の御指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

※ URL <http://www.ofic.co.jp>



新任教員紹介

機能性診断学分野

上路 林太郎

機機能評価研究部門 機能性診断学分野 准教授

3月1日より機能性診断学分野に採用になりました上路林太郎と申します。私は、「鉄鋼材料のマルテンサイトを利用した結晶粒超微細化と機械的性質の向上」という題目で大阪大学から博士(工学)を授与された後、香川大学工学部材料創造工学科に助手として採用されました。

初めに取り組んだ研究テーマは、電子顕微鏡の観察手法の一つである集束電子線回折にて得られる高次ラウエ線図形(HOLZ線)解析による金属材料中の弾性ひずみ場の測定でした。この際に、回折図形解析に関して多くを習得し、特に場所により不均一な構造・組織の解析手法に精通する機会を得ることが出来ました。一方で、時をほぼ同じくして、新規組成と組織制御の開発による鉄鋼材料の高強度高延性化に関する研究に取り組みました。本テーマは、NEDOの産業技術研究助成(若手グラント)にも採択されたこともあり、メーカーとの共同でも取り組み、その結果の一部は学会等

で公表されております。その際に、新材料が実際に実用に供されるためには、構造体化・接合方法も合わせて研究する必要があることを痛感し、摩擦圧接(FW)や摩擦攪拌接合(FSW)の研究も行いました。

そしてそこで、新規接合技術の開発が切り開く新しい技術・新素材の展開を実感しました。さらに当該分野において、これまで得た組織の解析手法が有効であるとの考えもあって、接合をキーワードとした研究をより展開してゆきたいと思うようになりました。

このたび、幸運にも接合科学研究所に採用されました。これまでの研究の知見を生かし、材料組織学や格子欠陥論を基礎に、溶接・接合に関連する研究と開発に取り組みたいと存じます。今後ともよろしくお願い致します。



FSW の現象を 3 次元で観察

藤井 英俊*, 森貞 好昭**

機能評価研究部門 機能性診断学分野 *教授, **特任講師

研究所で独自に開発した高輝度 X 線透過型溶接接合機構可視化システムを用いて摩擦攪拌接合 (FSW) の接合過程を世界で初めて観察することに成功しました。FSW は回転ツールの挿入によって生じる塑性流動を利用した固相接合法であり、プロセスが比較的単純なことに加えて継手が優れた機械的特性を示すため、基礎的な接合原理の解明に先行して急速に実用化が進んでいる接合法です。今回の結果は、FSW において最も重要な現象であるにもかかわらずブラックボックスとなっていた塑性流動挙動を 3 次元可視化したもので、接合条件や接合に用いるツールの最適化にも大きく貢献するものと思われます。加えて、各種産業界から切望されながら実用化が困難な鉄の FSW に関し、ブレークスルー技術を開発する指針を得

ることができるものと期待されます。

可視化システムは 2 台の高輝度 X 線源と 2 組の高感度・高解像度イメージ・インテンシファイアおよび高速度デジタルビデオカメラを同期協調制御する超高速可視化システムであり、ステレオの 2 次元平面画像をコンピュータ上で 3 次元立体画像に変換して、高速度に変化する溶接・接合部の内部現象を透視可視化することができます。強力な高輝度 X 線を用いることで被接合金属板中のトレーサーの軌跡を観察し、FSW 中の塑性流動挙動を 3 次元グラフ化することに成功しました。当該結果は Scripta Mater. 65 (2011) 1085 に掲載され、日刊工業新聞 (2011. 06. 07, 2011. 12. 05) 及び日本経済新聞 (2012. 10. 02) で報道される等、高く評価されています。

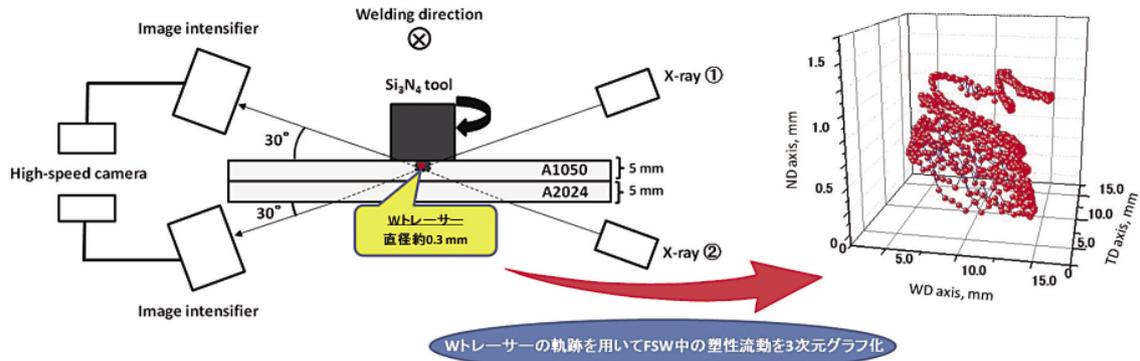


図 1 塑性流動の 3 次元可視化手法

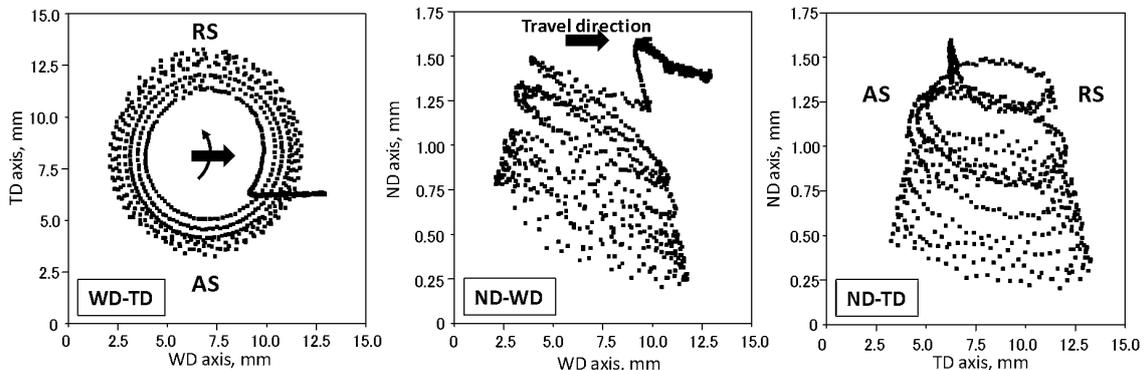


図 2 塑性流動の 2 次元グラフ

報告

当研究所の平成 22-23 年度活動実績に対する外部評価結果の報告

外部評価実行委員長 田中 学

加工システム研究部門 エネルギー制御学分野 教授

平成 24 年 8 月 10 日（金）に当研究所の外部評価委員会が本館特別会議室において行われました。今回の外部評価は、第 II 期中期計画前半の活動実績ならびに接合科学共同利用・共同研究拠点前半の活動実績を、平成 25 年度からの同計画後半の活動ならびに同拠点後半の活動へそれぞれ反映させるとともに、第 III 期中期計画の指針を策定するために、当初平成 25 年度に実施予定であった外部評価を 1 年前倒して平成 24 年度に実施したものです。

外部評価委員会委員長は、平田好則氏（（一社）溶接学会長、大阪大学大学院工学研究科教授）であり、外部評価委員会は国内の有識者 10 名、国外（外国人）の有識者 10 名で構成されました。評価の方法としては、所内外部評価実行委員会（委員長：田中学）により作成された研究所評価用資料を中心に、研究所年次報告、共同研究報告書、研究所要覧等のその他資料を加えて、国内外の各外部評価委員より書面による第一次評価を受けました。所内外部評価実行委員会においてこの第一次評価結果を集計し、外部評価の基礎資料としました。当日の外部評価委員会では、国内の評価委員全員にご出席いただき、本基礎資料をもとに研究所の運営、研究、教育、社会貢献、共同利用・共同研究拠点の各観点から活動実績に対する評価が行われるとともに、所内の施設見学が行われました。また、各研究部門・附属研究施設の活動実績に対する評価についても実施されました。外部評価委員会による評価結果、ならびに指摘された事項は、外部評価報告書の 8 章に纏められていますが、ここではその概要について以下に報告します。

運営、研究、教育、社会貢献、接合科学共同利用・共同研究拠点の何れの項目に対しても専任教員の数が少ない中、非常に活発な活動が行われているものと評価されました。特に、「ものづくり」

の基盤を支える要素技術の一つである、溶接・接合の分野で国内外において唯一の総合研究所として、その使命に沿った意欲的な運営が行われていることが述べられています。また、研究成果は当研究所の使命とよく合致しており、活動の量も十分なレベルにあるとともに、接合科学共同利用・共同研究拠点についても、毎年 200 人を超える共同研究員を受け入れており、活発な拠点活動が行われているものと評価されました。特に、近年、溶接に関する専門家が減ってきており、本拠点の活動は極めて存在感が大きいものと付け加えていただきました。

以上の総合的な評価結果に加えて、研究所運営の今後の将来戦略として、「溶接工学」と「接合科学」のバランスを考えることが、主な事項として指摘されました。溶接が実用化されて凡そ 100 年が経過しているものの、技術として未だ完成されていません。産業界からの技術開発の要望が極めて大きく、「溶接工学」を基盤研究として推進する必要があります。一方、文部科学省に属する大学附置研究所の立場としては、未知を切り拓き、人類の未来社会を豊にする「接合科学」の追求が必須です。したがって、「溶接工学」と「接合科学」のエフォート比率が 7 割と 3 割など、溶接と接合のバランスを戦略的に考えて欲しい、との指摘事項を頂戴しました。

以上、ここでは概要についてのみ報告しましたが、外部評価報告書全体は既に当研究所ホームページにおいて公開されています。今後、今回の外部評価結果、ならびに指摘事項を十分に踏まえ、当研究所の第 II 期中期計画後半の活動ならびに接合科学共同利用・共同研究拠点後半の活動へそれぞれ反映させるとともに、第 III 期中期計画策定の指針として取り入れることにより、所員一丸となって当研究所のますますの発展に努力する所存です。

Visual-JW2012

寺崎 秀紀

スマートプロセス研究センター 信頼性評価・予測システム学分野 准教授

世界中の溶接・接合分野に関わる研究者・技術者が一同に会し、溶接・接合現象のビジュアル化技術の最先端について学术交流を図るとともに、溶接・接合科学の発展と革新技術について議論を交わす場として、国際シンポジウム“The International Symposium on Visualization in Joining & Welding Science through Advanced Measurements and Simulation (Visual-JW2012)”が、2012年11月28日(水)から三日間にわたり、ホテル阪急エキスポパークにおいて開催されました。会議は大阪大学接合科学研究所の主催であり、また溶接学会との共催でした。実行委員長は当研究所小溝裕一教授でした。また、国際シンポジウムと平行して、Ohio State University (アメリカ)、Bundesanstalt für Materialforschung und-prüfung (ドイツ)、Brailian Nanotechnology National Laboratory (ブラジル)との共同行事として2nd International Workshop "In-situ Studies with Photons, Neutrons and Electrons Scattering"

が併催されました。小溝裕一実行委員長の国際会議開会の挨拶を皮切りに、プレナリーレクチャー、パラレルセッションおよびポスターセッションが行われました。各講演においては、参加者からの質問が非常に多く、内容に高い関心が寄せられました。溶接・接合現象の可視化に特化した国際会議は、15ヶ国から255名の参加者を得て、多くの議論の場を提供し、無事終了しました。



行事報告

共同研究員・共同研究成果発表会

田代 真一

加工システム研究部門 エネルギー制御学分野 助教

当研究所は接合科学共同利用・共同研究拠点として、全国の大学をはじめ工業高等専門学校や国公立研究所などから毎年多くの共同研究員を受け入れており、これらの共同研究の成果を多くの方々に公開する場として、共同研究成果発表会が毎年開催されております。平成24年度の発表会は、11月30日にホテル阪急エキスポパークにおいて、国際会議 Visual-JW2012 との共催という形で実施されました。今回の発表会では共同研究成果を海外の研究者にも発信することを目的として、英語による研究成果発表が行われました。研究成果は「溶接・接合プロセス」、「可視化と評価」ならびに「スマートプロセス」の3つのセッションに分類され、先導的重点課題の2件を含めて、全体として17件の研究発表が行われまし

た。それぞれの研究発表に対しては活発に質疑応答が交わされ、各セッションの最後には総合討論なども行われました。また、本発表会は Visual-JW2012 との共催にて実施されたこともあり、海外からの参加者も含め、全体で255名の方々にご参加頂きました。



行事報告

大阪大学接合科学研究所東京セミナー 「最新の接合技術の現状 –レーザとFSW–」

藤井 英俊

機能評価研究部門 機能性診断学分野 教授

2012年12月5日(水)に、東京(田町)のキャンパス・イノベーションセンターにおいて、第3回接合科学共同利用・共同研究拠点大阪大学接合科学研究所東京セミナー「最新の接合技術と現状 –レーザとFSW–」を開催致しました。

講演に先立ち、今年度から設けられた、接合科学共同利用・共同研究賞の受賞式が行われ、阿南工業高等専門学校 西本浩司氏、地方独立行政法人大阪市立工業研究所 福角真男氏らが受賞されました。

上記2名の受賞講演の他に、所内から、超短パルスレーザーを用いた材料への新機能付加技術(塚本雅裕)、レーザー溶接現象可視化の可能性(川人洋介)、摩擦攪拌接合中の塑性流動の可視化と摩擦攪拌粉末プロセス(FSPP)による継手の高機能化(藤井英俊)、摩擦攪拌接合現象の解明

に向けた数値解析的取り組み(芹澤久)の4件の講演を行いました。定員90名を大幅に超える108名の参加者があり、活発な議論が交わされました。年々、参加者は増加傾向にあり、本東京セミナーの認知度も上がっているようです。



行事報告

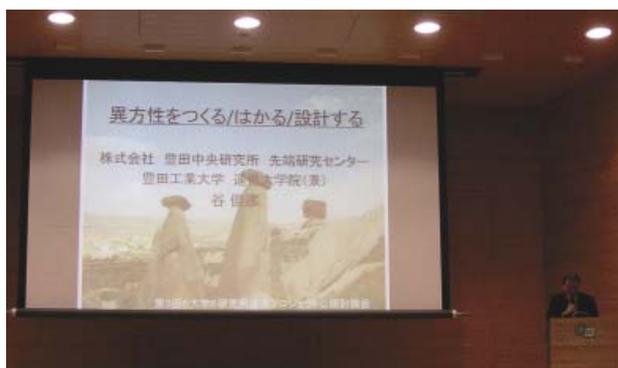
第3回6大学6研究所連携プロジェクト公開討論会

特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト拠点リーダー 節原 裕一

加工システム研究部門 エネルギー変換機構学分野 教授

2013年3月12日に名古屋大学野依記念学术交流館において、第3回6大学6研究所連携プロジェクト公開討論会が開催されました。当該プロジェクトは、文部科学省の特別経費として、2010年度から当研究所を含む6研究所(大阪大学接合科学研究所、東北大学金属材料研究所、東京工業大学応用セラミックス研究所、名古屋大学エコトピア科学研究所、早稲田大学ナノ理工学研究機構、東京医科歯科大学生体材料工学研究所)の有機的な連携により、環境・エネルギー分野、エレクトロニクス分野、生体・医療分野の3研究分野での実用化に不可欠な新技術開発を目指して推進しております。今回の公開討論会では、一般参加者を含めて参加者数は82名に上り、基調講演1件、

招待講演6件(各分野2件)に加えて、ポスター72件の発表が行われ、研究者間の活発な情報交換とともに、当該プロジェクトの研究成果を発信し、今後の方向性と展望に関する活発な議論が行われました。



平成 25 年度学生オリエンテーション

阿部 浩也

スマートプロセス研究センター スマートコーティングプロセス学分野 准教授

平成 25 年度の学生オリエンテーションが、平成 25 年 5 月 2 日(木) 午後 3 時より 5 時までのスケジュールで、接合科学研究所荒田記念館にて開催されました。本オリエンテーションは研究所に新しく配属された大学院生ならびに学部生を対象としたもので、今回は約 50 名の学生が参加致しました。教職員と各研究室の大学院生も参加しましたので、会場はほぼ満席となりました。冒頭、片山聖二所長より新入生歓迎の挨拶と研究所の特色などについての説明があり、続いて各研究

室、接合界面微細構造解析室、技術部の紹介が順次行われました。その後、「安全教育」講習会が実施されました。安全管理の概略説明に始まり、薬品管理・高圧ガス取扱い、接合研ネットワーク利用にあたっての注意事項や約束事などが各担当者より説明されました。午後 5 時過ぎから、同記念館ロビーにて交流会が開かれました。和やかな雰囲気の中で教職員と学生が親しく語り合う場となりました。



各研究室紹介を熱心に聴き入る学生達



「安全教育」講習会の様子

ニュース

平成 24 年度「接合科学共同利用・共同研究賞」

共同利用・共同研究企画委員長 近藤 勝義

接合機構研究部門 複合化機構学分野 教授

接合科学共同利用・共同研究拠点である当研究所における共同研究のうち、研究上の業績が特に顕著であると認められた研究課題を選定し、その研究課題に従事した共同研究員および研究所員を表彰することで接合科学の一層の発展に資することを目的として、平成 24 年度に接合科学共同利用・共同研究賞を設けました。共同研究運営委員

会・外部委員 2 名を含む同賞選考委員会を開催し、受賞候補課題に関して厳選に審議した結果、平成 24 年度におきましては、次に示す 2 課題を選出するとともに、平成 24 年 12 月に開催した当研究所主催の東京セミナーにおいて、授賞式ならびに受賞講演を行いました。

課題名：レーザー圧接法による異種金属接合に関する基礎的研究

共同研究者：西本浩司氏（阿南工業高等専門学校）

受入れ教員：片山聖二教授（レーザー接合機構学分野）

課題名：摩擦攪拌プロセスを用いた工具鋼のナノ組織制御

共同研究者：森貞好昭氏・長岡亨氏・福岡真勇氏（地方独立行政法人大阪市立工業研究所）

受入れ教員：藤井英俊教授（機能性診断学分野）

シンポジウム案内

接合科学研究所 第 10 回産学連携シンポジウム

産学連携の最新成果と当研究所各分野のシーズを幅広く知って頂くため、今年も産学連携シンポジウムを開催します。産学交流や情報交換の場として、奮ってご参加いただけますようお願い致します。参加費は無料ですが、事前の登録が必要となります。

日 時：2013 年 6 月 25 日（火）
 13：00～16：45：シンポジウム
 17：00～18：30：懇談会
 場 所：大阪大学中之島センター
 （大阪市北区中之島 4-3-53）
 問い合わせ先：sangak@casi.osaka-u.ac.jp

国際会議案内

IJS-JW2013: International Joint Symposium on Joining and Welding

溶接・接合に関する世界 3 大研究所である英国 TWI、米国 EWI と共同で、Friction Based Welding & Processing に関する国際会議を開催致します。

当日は、接合研が所有する摩擦攪拌接合に関する世界最先端の装置群の見学も予定されています。多数の参加をよろしくお願い致します。

日 時：2013 年 11 月 6 日（水）～ 8 日（金）
 場 所：ホテル阪急エキスポパーク
 大阪府吹田市千里万博公園 1-5
 詳 細：下記 URL をご参照下さい。
<http://www.jwri.osaka-u.ac.jp/~conf/IJS-JW2013/index.html>

平成 24 年度 外部資金受入状況

(H25 年 3 月末現在)

区 分	件数	金額 (千円)
民間等との共同研究	78	281,660
受託研究	24	483,150
受託研究員受入	12	4,059
奨学寄附金	64	88,985
科学研究費補助金	38	145,988
その他補助金	5	51,044
計	221	1,054,886

平成 25 年度 科学研究費補助金 (交付内定内訳)

(H25 年 4 月末現在)

種 目	件数	金額 (千円)
新学術領域研究	1	17,420
基盤研究 (A)	2	19,630
基盤研究 (B)	6	35,360
基盤研究 (C)	8	13,520
挑戦的萌芽研究	8	13,390
若手研究 (A)	1	2,340
若手研究 (B)	3	6,890
特別研究員奨励費	2	1,400
計	31	109,950

平成 25 年度 共同研究員の所属機関と受入人数

(H25 年 4 月末現在)

機関種別	受入人数
国立大学法人	91
公立大学法人	11
私立大学	19
工業高等専門学校	7
国公立研究機関	19
その他	1
計	148

「接合科学共同利用・共同研究賞」

平成 25 年度も、接合科学共同利用・共同研究賞を募集します。前年度までの過去 5 年間に実施した研究課題が対象となります。募集要項は、当研究所ホームページをご参照下さい。

各種賞受賞者等

平成 24 年 11 月 17 日	伊藤和博	Best Poster Presentation	
平成 24 年 11 月 17 日	篠永東吾(院生), 塚本雅裕, 堀口直人(院生), 阿部信行	Best Poster Presentation	The 3rd International Symposium on Advanced Materials Development and Integration of Novel Structural Metallic and Inorganic Materials (AMDI-3)
平成 24 年 11 月 17 日	西川 宏	Best Poster Presentation	
平成 24 年 11 月 17 日	阿部浩也, 近藤 光, 内藤牧男	Best Poster Presentation	
平成 24 年 11 月 17 日	大原 智, 譚 振権, 山本和広, 橋新 剛	Best Poster Presentation	
平成 24 年 11 月 22 日	三本嵩哲(院生)	平成 24 年度秋季大会優秀講演発表賞	(社) 粉体粉末冶金協会
平成 24 年 11 月 28 日	大園友行, 宮本欽生, 阿部浩也, 内藤牧男	粉体工学会 2012 度技術賞	粉体工学会
平成 24 年 12 月 13 日	篠永東吾(院生), 阿部信行	レーザ加工学会誌ベストオナー賞	(一社) レーザ加工学会
平成 25 年 1 月 30 日	三本嵩哲(院生)	軽金属希望の星賞	(一社) 軽金属学会
平成 25 年 2 月 13 日	今井久志, 近藤勝義	優秀論文講演奨励賞	(一社) 日本塑性加工学会
平成 25 年 3 月 22 日	三本嵩哲(院生)	大阪大学工業会賞	(一社) 大阪大学工業会
平成 25 年 3 月 22 日	板倉弘樹(院生)	卓越した大学院拠点形成支援「構造・機能先進材料デザイン教育研究拠点」ポスター発表賞	大阪大学大学院工学研究科
平成 25 年 3 月 25 日	船津恵介(院生)	日本機械学会 三浦賞	(一社) 日本機械学会
平成 25 年 3 月 25 日	三本嵩哲(院生)	優秀発表賞	大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻
平成 25 年 3 月 27 日	小濱和之	応用物理学会講演奨励賞	(公社) 応用物理学会
平成 25 年 4 月 18 日	片山聖二	溶接学会業績賞	(一社) 溶接学会
平成 25 年 4 月 18 日	小溝裕一	溶接学会業績賞	(一社) 溶接学会
平成 25 年 4 月 18 日	辻村吉寛(院生), 田中 学	溶接学会論文賞	(一社) 溶接学会
平成 25 年 4 月 18 日	辻村吉寛(院生)	溶接学会研究発表賞	(一社) 溶接学会
平成 25 年 4 月 18 日	竹本 正	溶接学会特別員	(一社) 溶接学会

本研究所の人事異動 (平成 24 年 11 月~平成 25 年 4 月)

【着任】

平成 24 年 11 月 1 日	事務長	戸田 博	配置換	平成 25 年 4 月 1 日	特任研究員	永塚 公彬	採用
平成 24 年 11 月 1 日	派遣職員	福山 香代	受入れ	平成 25 年 4 月 1 日	特任研究員	鄭 光云	採用
平成 24 年 11 月 16 日	特任研究員	小澤 隆弘	採用	平成 25 年 4 月 1 日	特任研究員	譚 振権	採用
平成 24 年 11 月 16 日	特任研究員	劉 峰超	採用	平成 25 年 4 月 1 日	特任研究員	伊藤 雄二	採用
平成 24 年 12 月 1 日	特任研究員	薛 鵬	採用	平成 25 年 4 月 1 日	技術補佐員	伊東万寿雄	採用
平成 24 年 12 月 1 日	特任研究員	PADHY GIRISH KUMAR	採用	平成 25 年 4 月 1 日	技術補佐員	村上 猛	採用
平成 25 年 2 月 16 日	特任研究員	辻 正和	採用	平成 25 年 4 月 1 日	事務補佐員	和田由紀子	採用
平成 25 年 3 月 1 日	准教授	上路林太郎	採用	平成 25 年 4 月 1 日	招へい教授	小関 敏彦	受入れ
平成 25 年 3 月 1 日	特任研究員	小濱 和之	採用	平成 25 年 4 月 1 日	招へい教授	中西 保正	受入れ
平成 25 年 3 月 16 日	技術補佐員	岩井 紀夫	採用	平成 25 年 4 月 1 日	招へい教授	豊貞 雅宏	受入れ
平成 25 年 3 月 16 日	事務補佐員	廣瀬志津子	採用	平成 25 年 4 月 1 日	招へい教授	橋口 公一	受入れ
平成 25 年 4 月 1 日	所長	片山 聖二	任命	平成 25 年 4 月 1 日	招へい研究員	米山三樹男	受入れ
平成 25 年 4 月 1 日	会計係主任	早川佐登美	配置換	平成 25 年 4 月 1 日	招へい研究員	辰巳 佳宏	受入れ
平成 25 年 4 月 1 日	庶務係員	光森 幸子	採用	平成 25 年 4 月 1 日	派遣職員	片山 美紀	受入れ
平成 25 年 4 月 1 日	特任准教授	山崎 裕之	採用	平成 25 年 4 月 1 日	派遣職員	吉村 淳子	受入れ
平成 25 年 4 月 1 日	特任助教	林 良彦	採用	平成 25 年 4 月 1 日	派遣職員	來間 和男	受入れ
平成 25 年 4 月 1 日	特任教授	阿部 信行	採用				

【離任】

平成 24 年 12 月 31 日	助教	津村 卓也	退職	平成 25 年 3 月 31 日	事務補佐員	村田千香子	退職
平成 25 年 1 月 15 日	事務補佐員	下村 陽子	退職	平成 25 年 3 月 31 日	事務補佐員	辻 泰栄	退職
平成 25 年 1 月 16 日	特任研究員	SUBRAMANIAM YUGESWARAN	退職	平成 25 年 3 月 31 日	事務補佐員	堂下亜企子	退職
平成 25 年 2 月 28 日	特任研究員	江 林	退職	平成 25 年 3 月 31 日	事務補佐員	大野 雅子	退職
平成 25 年 3 月 31 日	所長	中田 一博	任期満了	平成 25 年 3 月 31 日	技術補佐員	田中 昭男	退職
平成 25 年 3 月 31 日	准教授	阿部 信行	定年退職	平成 25 年 3 月 31 日	技術補佐員	中村 衣利	退職
平成 25 年 3 月 31 日	准教授	小林 明	定年退職	平成 25 年 3 月 31 日	技術補佐員	來間 和男	退職
平成 25 年 3 月 31 日	講師	崎野良比呂	退職	平成 25 年 3 月 31 日	招へい教授	百合岡信孝	終了
平成 25 年 3 月 31 日	庶務係主任	山本 幸子	配置換	平成 25 年 3 月 31 日	招へい教授	柳本 潤	終了
平成 25 年 3 月 31 日	会計係主任	中村 清志	配置換	平成 25 年 3 月 31 日	招へい教員	譚 振権	終了
平成 25 年 3 月 31 日	特任助教	寺島 岳史	退職	平成 25 年 3 月 31 日	招へい研究員	谷 勇毅	終了
平成 25 年 3 月 31 日	特任教授	金 裕哲	退職	平成 25 年 3 月 31 日	派遣職員	柏原美佐緒	終了
平成 25 年 3 月 31 日	特任研究員	金 春峰	退職	平成 25 年 3 月 31 日	派遣職員	末松千代子	終了
平成 25 年 3 月 31 日	客員教授	志賀 千晃	退職	平成 25 年 4 月 30 日	特任研究員	森下 誠	退職
平成 25 年 3 月 31 日	特任研究員	MOHAMED ASHOUR SAAD WAHBA	退職				

編集後記

ニュースレター 32 号をお届けします。溶接の実用化から 100 年が経過しましたが、計測技術やシミュレーション技術の目覚ましい進化により溶接・接合の世界は今まさに新しい段階に突入しようとしております。接合科学研究所も新所長のもと国内はもとより世界の拠点として接合科学における研究・教育の発展に貢献すべく力を尽くしたいと考えておりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(村川英一)

阪大接合研ニュースレター No. 32

2013 年 5 月 発行

発行：大阪大学 接合科学研究所

編集：接合科学研究所 広報委員会

〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘 11-1

TEL：06-6879-8677 FAX：06-6879-8689

URL：http://www.jwri.osaka-u.ac.jp/

E-mai：koho@jwri.osaka-u.ac.jp

印刷：(株)セイエイ印刷